

雪の上を歩きたくって、以前「スノーシューで歩こう」という広告を見たことを思い出し、パソコンで探し出しました。

奥日光・光徳温泉日光アストリアホテルの「スノーシュー・クロスカントリースキー エンジョイパック」で、用具のレンタル料金込みのサービスパックです。期間は3月の末まで、雪がなくなるとこのサービスは終わるので、2月中旬に計画して皆さんに声を掛けました。急だったので都合のつかない人が多く、星・阪西・勝沼の三人で行ってきました。

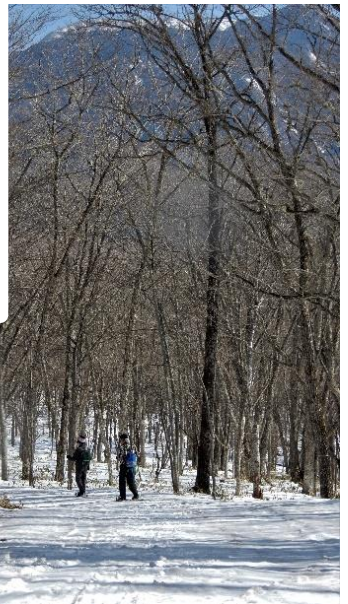
二日間とも快晴で、のんびりゆったり雪の上の散歩を楽しんできました。



スキーは昔やったことがあるから、クロスカントリースキーだってどうということはない、と高をくくって用具を借り出し、意気揚々と歩き始めた。初めはちょっと勝手が違う感じがしたがそのうち慣れるだろうと、前に進んだ。(上の写真)



昼食を食べて(左上の写真)少し行くと斜面が下りになり、途端に自由が利かなくなった。勝手にスピードが出て止めようと思っても止まらない。転がって止まると立ち上がるのに一苦労。これではいけないと、戻ってスノーシューに借り替えることにした。その前に、クロスカントリースキーを使ったという証拠写真を撮っておかなければ。



スノーシューに履き替

えて歩き出す。右上の写真はコース案内の看板。

3km コースのスタートは、写真中央に見える樹木の間の道を、奥に向かって進んで行く。

すぐに冬枯れの林に入るが、白樺も唐松も葉を落しているので明るく、気持ちがいい。気温が高かったので雪はやわらかいが、スノーシューのお陰で滑る恐れも踏み抜く恐れもない。コースはきちんとできていて、危険な場所はない。安心して歩くことができる。時々聞こえる鳥の鳴き声を楽しみ、木々の梢を見て歩く。



だから、コースの終わり近くに、倒れた木に腰を下ろして“赤ワイン”の栓を抜き、乾杯した。



ワインのボトル→



陽射しはかなり傾いてきたが、時刻はまだ午後3時を過ぎたばかり。720ミリリットルのボトルなど、三人で飲めばあっという間。立ち上がって歩き出す。20分も歩くと、ホテルの裏庭に帰りついた。(右の写真)

右の山は太郎山、左は山王帽子山と、スノーモービルに乗って何か作業を終えて帰ってきた、ホテルのスタッフが教えてくれた。

ホテルにチェックインして、温泉に入り、風呂あがりにビールを飲んだことは、毎度のことで書くまでもない。

明日は戦場ヶ原を歩いて帰る予定だ。

(つづく)





二日目(9日)。今日も良い天気だ。
6時過ぎに起床。風呂に入り身支度を整えて7時30分食堂へ。
朝食を終えてチェックアウト後、ロビーの売店で「いちご一会とちぎ旅」で買った地域クーポン券2,000円を使ってお土産を買った。
ホテルの正面玄関前がバス停になっている。8時37分発のバスに乗り、光徳入口で下車。国道120号線の逆川橋付近に案内板あり、ここから戦場ヶ原に入る。
スパッツと軽アイゼンを着け、歩き始めた。



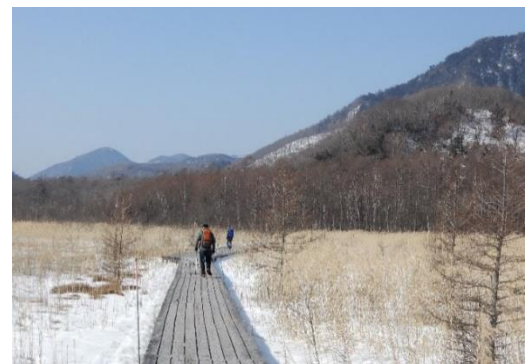
コース中、要所要所にこんな案内板が立っている。これらを全部読んで憶えたら、「戦場ヶ原通」になるだろう。
このあたり、逆川の水が流れ込んでズミの林になっている。



遠くの丸い頂は、金精山だろう。何年前の夏、あの下の方から右へ温泉ヶ岳・根名草山を越えて、日光澤温泉まで歩いたことを思い出す。



いよいよ戦場ヶ原らしくなってきた。見渡しても人影はない。陽当たりの良い場所の木道の上は雪がなく、アイゼンでは歩きにくいし、木道を痛めてしまいそうだが、すぐにまた雪の上を歩くようになるので、気にしながら歩いていた。その心配は、泉門池・青木橋を過ぎて戦場ヶ原中央の広い木造のデッキがある展望台で、アイゼンとスパッツを外して終わった。



小田代橋。静かだ。湯川。川の流れるは速いが水音は小さい。カラ類の鳴き声がどこかから聞こえる。



泉門池(いすみやどいけ)に着いた。林越しの男体山をバックに記念写真を撮る。



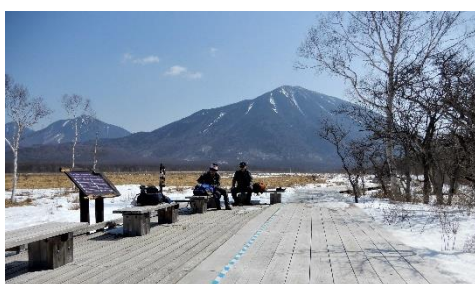
花の咲く時期に、また来たいものだ。



左の山は男体山なのだが、右の山々の名前は判らない。山あり、林あり、草原あり、変化に富んだ眺望が良い。



青木橋。休憩に良いベンチが何脚か並んである。



休憩し、アイゼンとスパッツを外した。広々としていて戦場ヶ原が見渡せる場所。



湯川沿いの自然研究路を辿って赤沼を目指す。国道120号線にぶつかり、赤沼バス停がある。

今回の山旅はここまで。あとはバスで下るのみ。西参道入口バス停で降りて昼食。二社一寺を参拝。三たびバスに乗り東武日光駅へ。特急の座席を確保して、駅前の食堂へ入り、打ち上げの生ビールで乾杯。

旅人 阪西 保(写真)・星 富夫 勝沼正敬(写真・記録)